

2015

北海道教育大学附属札幌中学校

平成27年度 国立教育政策研究所
教育課程研究指定校事業 研究協議会

研究概要説明

北海道教育大学附属札幌中学校
保健体育科 高橋 正年

takahashi.masatoshi@s.hokkyodai.ac.jp



研究主題

「学びの主体者」となる生徒の育成 —「問い」を活かす授業の探究—

- ◆ 自らの思考・判断をもとに、
自他に働きかける生徒
- ◆ 他者との関わりを通して、自分自身を客観的に捉え、
自己の成長に向かうことができる生徒



研究仮説

生徒自らが「問い」を生み、「問う」ことの価値を実感する学び合いによって、「学びの主体者」となる生徒を育成することができる

「問い」

思考・判断

「問う」

■ これまでの自分の認識や経験との違いから生じた疑問のうち、解決したいと強く思うもの

■ 「問い」を解決するために他者に働きかける行為



【体育分野】

- 運動を合理的に実践するため、**運動の技能や知識を活用するなどの思考力・判断力を育成するための指導や評価方法等の工夫改善**についての研究

【保健分野】

- 個人生活における健康課題を把握し、その解決を目指して具体的に考え、判断し、それらを表現する力の育成を図り、**「知識を活用する学習活動を取り入れる指導方法の工夫」**のための具体的な指導方法等の研究

プレゼン資料と学習案について



「問い」「学習課題」に
関連する内容

「問い」

青の実線で標記

「問う」

緑の二重線で標記

「問う」「学び合いによる
探究活動」に関連する
内容

1 目標

「取」は、重心を左足に移す「受」の動きに応じて、体落としに必要な動き（進退動作、崩しと体さばき）を工夫することができる。

2 展開 (8/12)

流れ	○生徒の学習活動	・教師のかかわり
	○挨拶・準備運動・受け身 ○3人1組による協同学習 体落としの約束練習。観察者は、安全面・技の出来栄を評価し、約束練習をコントロールする。 *左足に意図がある相手に技をかけるには	・本時とのつながりを促す。 ・体落としの技の行い方のポイントを確認。 ・これまでの約束練習の条件を変える 教師が「受」を担当し、「取」の動き（崩しと体さばき）を工夫する。
(15分)	○学習課題の共有化 右足を後ろに下げる（重心を左足に移す）相手に、体落としをかける【学習課題】（右足に重心を移動させる）には、どのような動き（進退動作、崩しと体さばき）の工夫が必要だろうか	
	○仮説の設定 *今まで以上の進退動作や引き手はどうか。 *体落としを何度もかけ続けてみようか。 *八方崩しや抑え込みの知識を活用できないか。 *相手の動きを利用できないか。 《問うことの価値を実感する学び合い》	・課題解決に向け、技能的な側面と態度的な側面からの視点を整理する。
検証する (20分)	○仮説の検証 相手の動きに応じた進退動作、崩しと体さばきの探究活動。協同学習で役割を交代しながら行う。 	・役割を意識することの必要性や、協同的に行うことの意義を確認する。 ・グループ内の役割が適切に行われているかを確認する。 ・「取」が技のかげの状態になったら、「受」は抵抗せず、受け身をするよう徹底する。
確認する	○全体交流 検証の結果を交流し、動きのポイントをまとめる。 ○再検証 動きのポイントを活かし、約束練習で確かめる。	◆「受」の動き（体勢を立て直す相手の動き）に合わせて、体落としをかけることができるか。
つなげる (40分)	体落としは自ら（取）の進退動作により、真後ろや左後ろ側に崩し、相手（受）が体勢を立て直す動きに合わせて、体さばきを行うことが必要だ。 《意味づけの場》 ◇動く相手に対して、「取」の動きを工夫することができた。体落としだけではなく、他の技でも今後追究してみたい。 ○本時のまとめ 意味づけから自己の学びをとらえる。	・本時の学びを振り返り、学習シートに記述するように指示する。 ・本時の学びの姿をとらえ、次時の学びの意欲を高める。
(50分)		

思考力・判断力等の育成するためには…



知識・技能を活用して
課題を解決するために必要な

思考力・判断力等



知識や技能の
活用場面の設定

課題を解決する
場面の設定



不十分ではないだろうか



授業者の意図的な
働きかけが必要

整理分析し、探究
できる場面の工夫



思考力・判断力等の育成するためには…



生徒自身が課題を解決したいと強く思う
内面的なアプローチ

他者との学び合いを通して課題を解決できる場面の設定

生徒自らが
「問い」を生むこと

「問う」ことへの価値を
実感する学び合い

知識・技能を活用して課題を解決し
思考力・判断力等を高める授業



生徒自らが「問い」を生むこと

思考・判断を進める原動力として

生徒自身が課題を解決したいと強く思う内面的なアプローチ

- ①【体】【保】既成概念を検証する学び
- ②【体】「やりたい」のに「できない」から展開する学び
- ③【体】「条件や状況が変わる」と「できない」から展開する学び

「問う」ことの価値を実感する学び合い

課題を解決する手立てとして

他者との学び合いを通して課題を解決できる場面の設定

【体】【保】「問い」を解決するための自らの
「仮説」の設定と「検証」の重視



保健分野



第3学年

感染症の予防「エイズ及び性感染症の予防」

実践例①



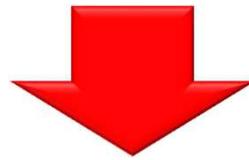
指導内容

- エイズ及び性感染症の増加傾向とその低年齢化が社会問題になっていることから、その**疾病概念や感染経路について理解**できるようにする。
- **予防方法を身に付ける必要があることを理解**できるようにする。

例えば、エイズの病原体はヒト免疫不全ウイルス（HIV）であり、その主な感染経路は性的接触であることから、**感染を予防するには性的接触をしないこと、コンドームを使うことなどが有効**であることにも触れるようにする。



身に付けた知識や技能を活用して課題を解決し、
思考力・判断力等を高めるために・・・



■ HIV特有の疾病概念が存在すること、感染数が増加している現状を捉え、感染症の予防方法に関する知識を活用して、エイズの予防方法について科学的に検証すること。

■ 学習したことを事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして、道筋を立てて説明できるようにすること。

本時の目標

- 感染症の予防方法に関する知識の活用を通して、エイズ（HIV）特有の疾病概念を理解し、予防方法を検討することで、学習したことを事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして、**道筋を立てて** それらを説明することができる。

※筋道を立てて

本時で学ぶ「HIV特有の疾病概念」を踏まえ、予防の方法を説明することをねらいとした。



【保】感染症の予防 「エイズ及び性感染症の予防」



常に前時まで学んだ内容を振り返ることができる工夫

① 感染症の原因と予防に関する知識

保健分野 学習シート

北海道教育大学附属札幌中学校
3年 A組 59番
氏名 西山 歩和

感染症とその予防

0 3年生の保健の学習での課題 (知識, 行動, 考え方)

「感染症とその疾病の予防」
→ 健康の保持増進や疾病の予防にはどのような事が必要だろうか。

病原体が体内に侵入し、定着、増殖すること。

★ 感染症
病原体の感染によって起こる病気のこと。
(細菌やウイルス)
① インフルエンザ、ノロウイルス、O157 など (結核やB型肝炎ウイルスなども)
× おうむくしたものを舐める/ウイルスを吸い込む/食べ物から

★ 感染する条件
感染症は、病気によって特徴が異なる。
・インフルエンザ…冬に } 活動しやすい環境
・食中毒…夏に }
・人口密度が高い所 } 感染が拡大しやすい。→ 感染の性質
・衛生状態の悪い所 }
(海外旅行者や輸入動物によって病原体が持ち込まれる。)

・温度、湿度 } 環境条件
・人口密度、交通 }
(四) 主体の条件

① 感染せず → 体内に入らなければ
② 症状が軽い、抵抗力がある
③ 感染 → 発症
④ 潜伏期間 (症状が出るまで)
(潜伏期間でも感染発見は可能。下の、早期発見、早期治療が必要。)

★ 感染症を予防するには

① 感染源
② 感染経路
③ 抵抗力 (病気の種類によって変化する)

① 病原体を保有する人も、動物など病原体に汚染されたもの。
② 病原体が移動する途程。
③ 病原体から体を守り、感染症に打ち勝つ力。



→ 性的接触によって感染する病気) …様々な種類・潜伏期間・症状・治療法がある

① 精液
② 膻分泌液
③ 血液
④ 性器、口の中の粘膜
⑤ 母乳

なぜ字がの？

① 男女とも、不妊の原因となる。
② 症状がなくても進行し、移す原因に。
③ 子どもに感染する。…肺炎、失明、死亡など

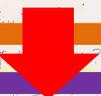
→ 20代が圧倒的に多く感染しており、男性よりも女性の感染が多い。

① 自分が感染しないようにするには？ 予防方法は？
② 自分が感染を拡大させてないには？

① 性的接触をしない・直接的な接触を避ける。(コンドームの使用)
② できるだけ早く医療機関で検査、治療を受ける必要がある。

① HIVの感染経路
(・精液、膻分泌液 → 性的接触) ② 日本は先進国の間で唯一、増加している。
(・母乳、血液 → 血液感染、母子感染) ③ 20代-30代に多い…発症が増加している。

⇒ 発症すると、かぜに似た症状が出る。
① 潜伏期間は数年-10年以上(長い)



3 HIVの感染を防ぐためには、どうしたらいいか？

① 潜伏期間に早期発見が可能。実際に発症したのは約10年後
② 定期的に検査に行く必要がある。HIVを発見するまでに…
③ HIVの感染(数日) 潜伏期間(数年-10年) → 発症

① 自分が感染しない、また他の人に感染させてない。
② 正しい知識を持つ
③ それに基づいた行動をとる

① 正しい知識の不足による正しい行動がとれない。
② 自分には関係ないという意識
③ 正しい知識の不足による正しい行動がとれない。

① HIVが潜伏期間で、検査期間 → ウィンドウ・ピリオド (1-3ヶ月)

① 多くの人と性的接触をしない。・正しい知識を持つ → その知識を伝える。
② 定期的に検査をする。・パートナーをよく知る。
③ コンドームを使用すると、子供がつかれない。

② 性感染症に関する知識

③ 本時 エイズ

【保】感染症の予防 「エイズ及び性感染症の予防」



前時までの学習内容と本時の学習内容を関連付ける工夫

前時までの学習内容

本時の学習内容





前時までの学習内容の振り返り①

感染症とは

病原体※1の感染※2によって起こる病気

※1 病原体：細菌やウイルス

※2 感染：病原体が体内に侵入し、定着・増殖すること

感染症の一例...

インフルエンザ、ノロウイルス、o-157などの食中毒



前時までの学習内容の振り返り②

感染症を防ぐには

感染源

感染経路

抵抗力



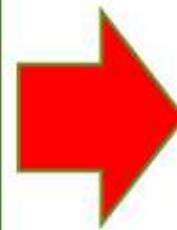
前時までの学習内容の振り返り③

性感染症

性感染症：性的接触によって感染する病気

感染症を引き起こす病原体は

- ①感染者の精液
- ②感染者の膣分泌液
- ③感染者の血液
- ④感染者の性器、口の粘膜
に存在する。



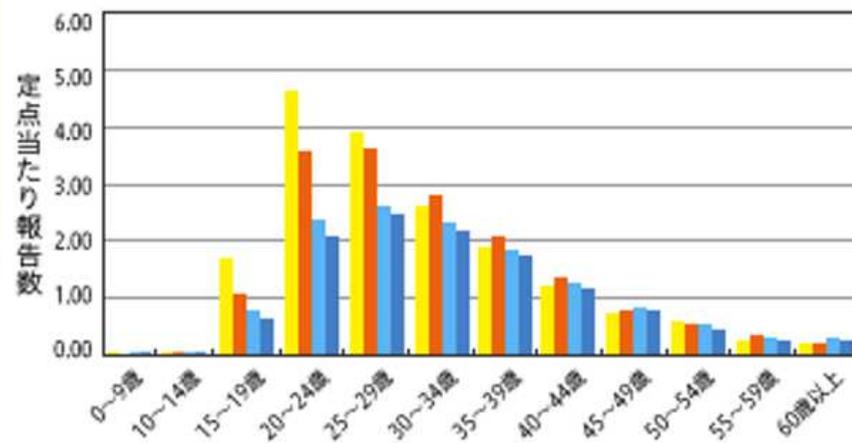
これらに
接触すること
で感染



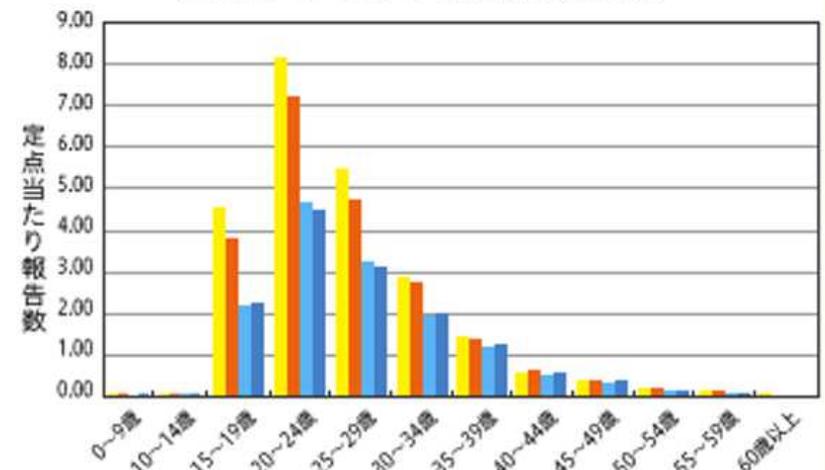
前時までの学習内容の振り返り④

どうして今なの？

性器クラミジア感染症(男性)



性器クラミジア感染症(女性)



■ 2000年 ■ 2005年 ■ 2010年 ■ 2011年

資料:「感染症発生動向調査」(2012年4月現在の概数)





前時までの学習内容の振り返り⑤

主な性感染症

クラミジア
感染症

りん菌
感染症

潜伏期間でも感染発見は可能！
発症までに**早期発見・早期治療が必要**

1-3週間

2-9日

2-10日

3-32週間

3-4週間

感染の心配がある性的接触後は
素早い検査・治療の実施

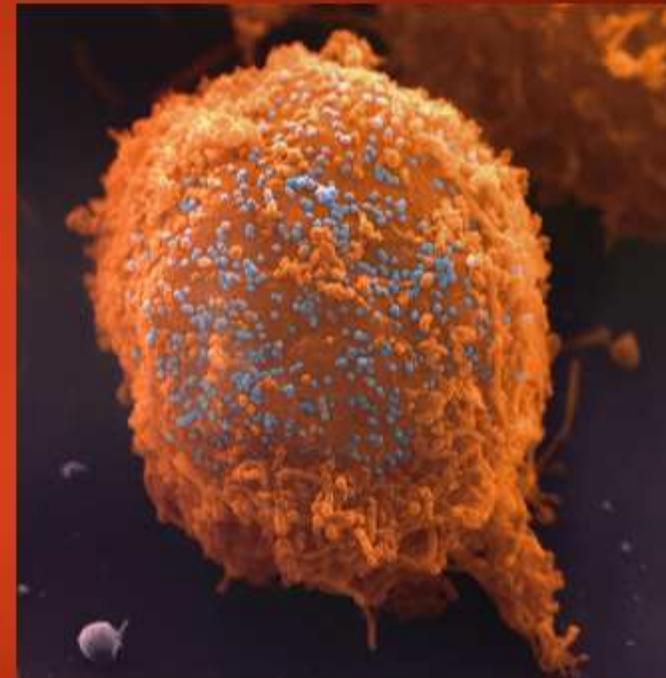
要点

エイズの疾病概念の理解①

エイズとは

HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染すると、ヒトの体を様々な細菌やウイルスなどの病原体から守る細胞（T細胞）を破壊し、普段は感染しない病原体にも感染しやすくなり、様々な病気を発症します。

この様々な病気を発症する状態をエイズ（後天性免疫不全症候群）と言います。代表的な23の疾患が決められており、これらを発症した時点でエイズと診断されます。



T細胞に増殖したHIVウイルス
※出典：Newton2015.02月号

P-1



エイズの疾病概念の理解②

P-2

エイズの現状

- ①1981年に発見されて以来、全世界で約3530万人（日本の人口の27%）がエイズを発症し、年間に約150万人の死者
- ②感染者数の70%がアフリカ。
- ③発症を遅らせる薬、抵抗力を高める薬が開発されている。薬は高価であるため、アフリカでは使用できず、エイズの感染や発症が止まらない。先進国は減少している。



エイズの疾病概念の理解③

エイズが発症するまで



感 染

かぜやインフルエンザに似た症状
発熱、のどの痛み、だるさ、筋肉痛

エイズの「潜伏期間」は、
数年から～10年以上

発 症



エイズの疾病概念の理解④

P-5

日本のHIV感染者数・エイズ患者数



厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「国内外のHIV感染症の流行動向及びリスク関連情報の戦略的収集と統合的分析に関する研究班」
(主任研究者:木原正博)



エイズの疾病概念の理解⑤

P-6

HIVの感染経路

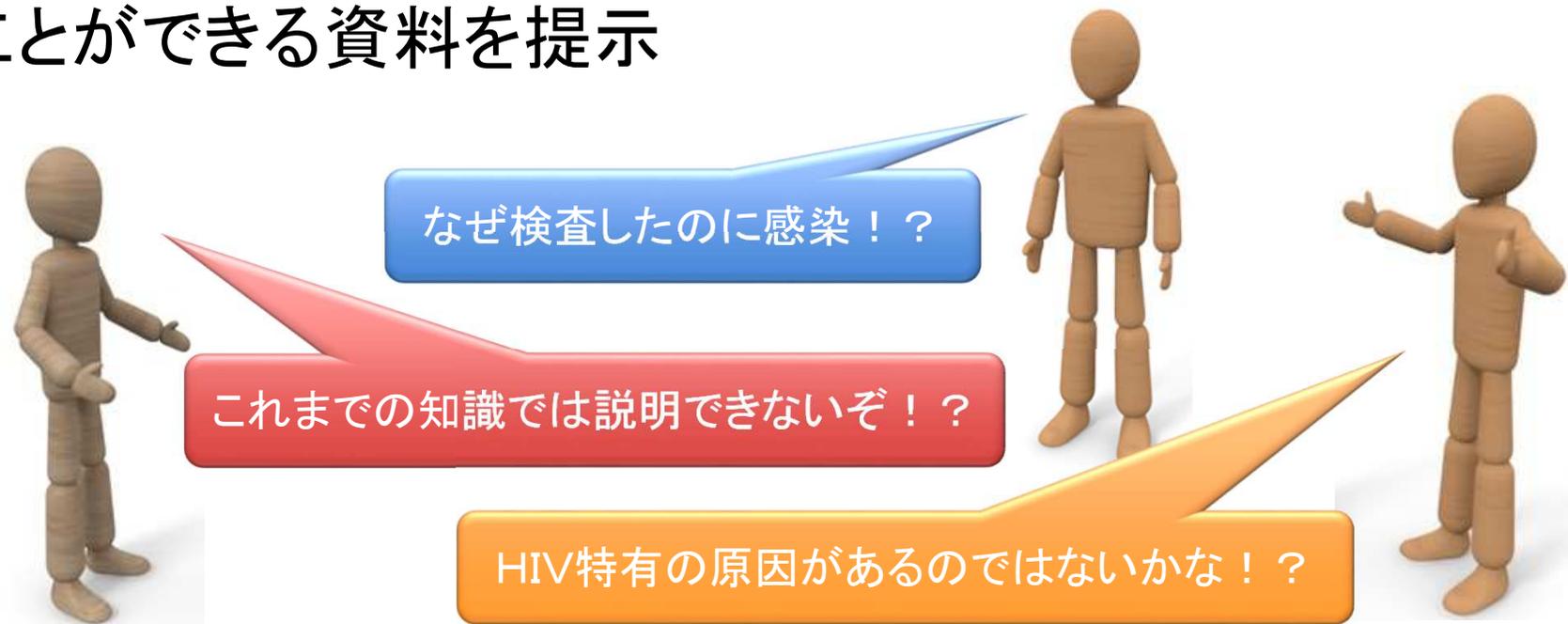
HIVは精液、膣分泌液、血液、母乳などに多く分泌されます。唾液、涙、尿などの体液では、他のヒトに感染させるだけのウイルス量は分泌されていません。





ケーススタディ

HIV感染後、**ウィンドウ・ピリオド**期間に検査を受け、発見が見逃された事例を紹介し、エイズを発症した原因を探ることができる資料を提示



既習内容と事例を比較し、生徒自らが「問い」を生む



Aさんの事例

- ①21歳の女性Aさんは、大学生のBさんと交際中、一度性的接触をもちました。
- ②一ヶ月後、BさんがHIVに感染していることがわかり、AさんにBさんから連絡がきました。
- ③HIVの検査を受けるよう勧められたAさんはすぐに検査を受けました。



Aさんの事例

- ④Aさんの結果は陰性で、HIVの感染が認められませんでした。
- ⑤Bさんは、その後、治療と投薬のおかげで、10年間エイズの発症を抑えることができました。
- ⑥10年後、31歳のAさんは、Bさんとは違う男性と結婚し、新しい命を授かることになりました。



Aさんの事例

- ⑦しかし、生まれてきた赤ちゃんの血液検査の結果、血中からHIVが検出されました。
- ⑧Aさんも同様に、HIVが検出されました。
- ⑨しかも、検査の結果、Aさんはエイズを発症していました。様々な検査の結果、Bさんとの性的接触が感染経路であることが判明しました。



「問い」



「問う」

「どうしたら性的接触によるHIVの感染を防ぐことができるだろうか」

ケーススタディを用いて解決方法を探究
①既習内容では説明できない点を整理
②疑問点を明らかにし、予防方法をまとめる。

①仮説の設定(個人➡グループ)

②全体交流

※他に感染経路が存在するのではないか!?

※HIV特有の性質があるのではないか!?

③ウィンドウ・ピリオドから、エイズの疾病概要を理解

④感染を防ぐ方法をまとめる



「問う」

ケーススタディを用いて解決方法を探究
①既習内容では説明できない点を整理
②疑問点を明らかにし、予防方法をまとめる。

①仮説の設定 (個人⇒グループ)

◆仮説を立て検証のため他者に問うためには、自己の考えをしっかりとつこと、いわゆる、自分の立ち位置を明確にすることが大切である。





「問う」

ケーススタディを用いて解決方法を探究
①既習内容では説明できない点を整理
②疑問点を明らかにし、予防方法をまとめる。

②全体交流

※他に感染経路が存在するのではないか！？

※HIV特有の性質があるのではないか！？





「問う」

- ケーススタディを用いて解決方法を探究
- ①既習内容では説明できない点を整理
 - ②疑問点を明らかにし、予防方法をまとめる。

③ウィンドウ・ピリオドから、エイズの疾病概要を理解

- ◆全体交流で疑問であった生徒の言葉から、潜伏期間に関わる「HIV」特有の疾病概念を示す。





「問う」

ケーススタディを用いて解決方法を探究
①既習内容では説明できない点を整理
②疑問点を明らかにし、予防方法をまとめる。

④ 予防方法をまとめる

◆自分の考えと、仲間との交流を受けて、予防に必要な考え方をまとめる。





予防方法を「問い」を解決するための仮説の設定

感染症の予防に関する知識から

- ①性的接触を行わないこと
- ②コンドームの使用(感染経路を遮断する性的接触)によって感染を防ぐこと
- ③検査の実施や治療

本日の学びを受けて

- ④感染の心配がある場合は、3ヶ月後のウィンドウ・ピリオドが経過した後に検査を行い、陽性の場合、適切な治療や投薬を行うこと

【保】感染症の予防 「エイズ及び性感染症の予防」



生徒(A)の記述

HIVの感染を防ぐためには、性的接触をしないというのが一番ではあるが、現実的に考えると、避妊具を使用することや、なるべく早期に発見をして感染の拡大を防ぐために素早い検査というのが大事であると思う。また、一度陰性の結果が出ても、何ヶ月か後にもう一度検査を受け直す必要がある。

- 正しい知識を持つ
- パートナーを知る
- 薬の投与
- 事前に検査
- 不特定多数の人と性的接触をしない。

感染症の予防に関する知識から

生徒(B)の記述

本日の学びを受けて

やはりHIVの感染の原因は性的接触なので一番いいのは避妊具と避妊具の使用をすることかHIVの感染を防ぐのに大切なのではないかと思ひました。また感染の疑いがある場合は水に浸すのではなく、4週間経過後に検査を受けることが大切なんだと思ひました。



体育分野

第3学年



球技「インディアカ」(ネット型)

実践例②



思考・判断の高まりに、なぜ？インディアカ

【課題①】話し合いの時間を確保することで、運動量とのバランスが問題

【課題②】思考・判断した内容を確認めたり、深めたり、検討し直したりする活動が必要



- ①ボール操作が他のネット型球技よりも比較的容易であり、
作戦を考えたり、ボールを持たないときの動きを身に付けるための工夫をしたりなど、単元を通して思考・判断する時間の確保がしやすい。
- ②一度にゲームを行うことができる人数が、他のネット型球技よりも多いことから運動量が増え、体を動かしながら役割に応じたボール操作を指摘し合ったり、連携した動きを選択したりするなどの思考・判断する時間の確保がしやすい。



指導内容

技能

- 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。
- 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。

態度

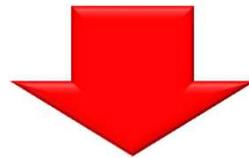
- 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、作戦などについての話合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。

知識、思考・判断

- 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、**自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫**できるようにする。



身に付けた知識や技能を活用して課題を解決し、
思考力・判断力等を高めるために・・・



■ 授業導入時にゲームを振り返り、役割に応じたボール操作と連携した動きの課題について他者評価をもとに「問い」を明確にする。

■ 「問い」の解決はチーム力の向上への関連を価値付けを行う。

本時の目標

- 役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開するために、仲間の技術的な課題や動き方について指摘することができる。



【体】第3学年 球技「インディアカ」(ネット型)



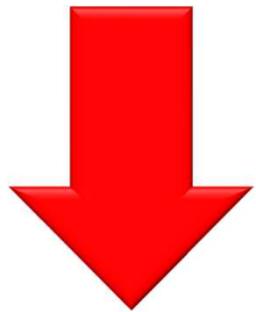
◆前時に考えた動きと、本時のゲームの振り返り

◆他者評価

→役割に応じたボール操作と連携した動きについて、仲間の動き方を指摘し合い、課題を明確にする。

◆教師による価値付け

→「問い」の解決は、チーム力の向上につながることを価値付け



仲間の技術的な課題を指摘することができたかを捉え、目標の達成に必要な視点を促す。

「問い」

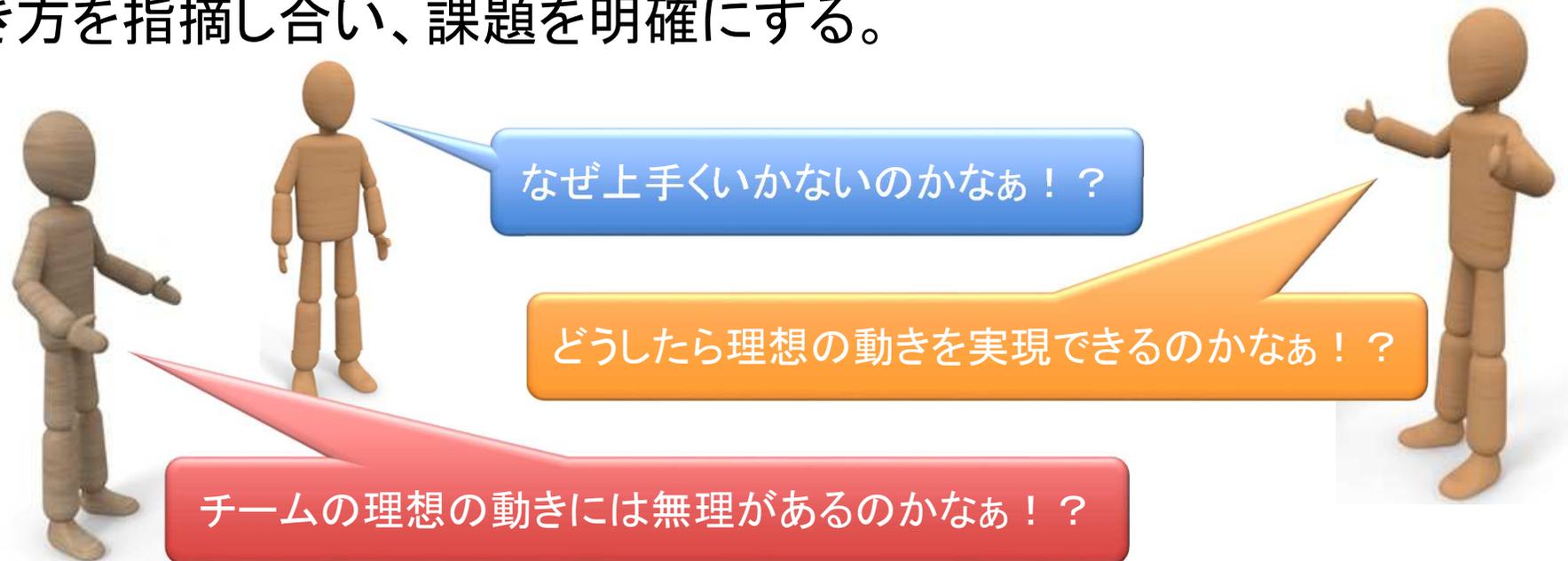
理想とする動きを「やりたい」のに、「できない」状況から、生徒は、「自分たちの理想の動きは、どのようにしたら成功できるか」という「問い」を生む。

【体】第3学年 球技「インディアカ」(ネット型)



前時と本時をつなぐ

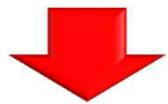
前時に考えたチーム内の役割や動き方を、導入のゲームで活かし、「やりたいこと」と「できたこと」との比較から、役割に応じたボール操作と連携した動きについて、仲間の動き方を指摘し合い、課題を明確にする。



「やりたい」のに、「できない」状況の設定によって、生徒自らが「問い」を生む



「問い」



学習課題



「問う」

「自分たちの理想の動きは、
どのようにしたら成功できるか」

役割に応じたボール操作と連携した動きには、
どのような動き方が必要だろうか

動き方の検討と確認
ボールの位置や軌道を想定して、**体を動かしながら**互いの具体的な動き方を検討し確認する。



「問う」

動き方の検討と確認

ボールの位置や軌道を想定して、**体を動かしながら**互いの具体的な動き方を検討し確認する。

仮説

【チーム練習】役割に応じたボール操作と連携した動きを確かめながら練習を行い、互いの動きを捉え、動き方を工夫する。

検証

* ○○さんがスパイクを打ちやすい

位置にボールを集めよう。

* ○○君がレシーブした瞬間、□□へ移動しよう。

【確かめのゲーム】理想の動きをイメージし、チームとしての動きを確認しながらゲームを行う。

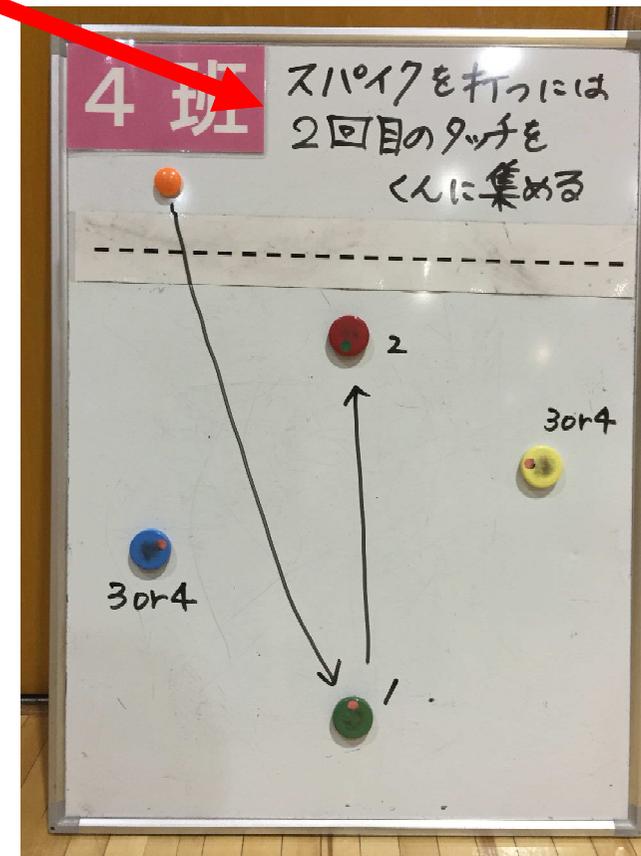
【体】第3学年 球技「インディアカ」(ネット型)



仮説の検証

◆「問い」を解決する方法として、
ホワイトボードを活用する

- ①動き方を工夫する。
- ②タッチの順番を決める。





仮説の設定

- ◆ チームで考えたこと
(連携した動き) を、
実際に動きなら確かめる



動き方の検討と確認

ボールの位置や軌道を想定して、**体を動かしながら**
互いの具体的な動き方を検討し確認する。



生徒(A)の記述

課題の指摘に関すること

役割と守る場所をしっかりと決めて、ネットの近くで打たれるのを防いだり、空いているところを埋めたりすることができた。でも、打ちやすいところに、はね上げることは難しかった。でも、このチームの課題を、仲間
ちゃんと伝えることができたし、次回のゲームではこの課題に集中して取り組んでみたい。

生徒(B)の記述

ボール操作や連携した動きに関すること

誰がどこにいても、打つ人とレシーブをする人、その途中をつなぐ人の役割を
決めて、そのポジションへの動き方を確認して、仲間には指示やアドバイ
スをすることができました。しかし、実際のゲームでは、空いた場所をカバーする動きには課題が残ってしまいました。



研究のまとめ



思考力・判断力等を育成するために・・・

「問い」を活かす授業を振り返って

成果と課題

思考力・判断力等を育成するには・・・

生徒自らが「問い」を生むこと

①自らの力で探究しようとする意欲のアプローチ

解決したいという強い思いや願いを想起する内面的なアプローチにより、自らの力で探究しようとする意欲を高めるとともに、運動の行い方のポイントを見付けたり、課題に応じた練習方法を選んだりするなどの思考力・判断力を育む原動力となる。

②思考・判断を進めるきっかけとする「問い」

「問い」を生む手立て①「既成概念を検証する学び」、②「やりたい」のに「できない」から状況から「問い」を生む展開は、「問い」を生むことに機能し、思考・判断を進めるきっかけとすることができた。



思考力・判断力等を育成するには・・・

「問い」を解決するために、
他者に「問う」活動を設定すること

③自らの「仮説」を設定する

「自ら」という視点が大切。グループ学習において「問い」を解決する方法を模索するとき、他者の考えに同調し、適切な方法かを吟味せずに、他者の考えを鵜呑みにして活動する姿も多く見られた。

自らの考えや判断をスタートとしてから他者との交流を行うことで、手立ての幅を広げ、解決の可能性を高めることができる。

生徒が立てた仮説の探究は、課題の解決を導き、本時の目標（思考力・判断力等の育成）の達成へとつなげることができる。



思考力・判断力等を育成するには・・・

「問い」を解決するために、
他者に「問う」活動を設定すること

④一往復半以上の「問う」を大切にする

「問い」を解決方法を他者に「問う」とき、自己の考えを一歩的に伝えるだけでは、運動の行い方のポイントを見付けたり、課題を解決するための方法を見出したりすることができない。

他者の考えを一度受け入れ、その考えに賛同や疑問の根拠を共有する必要がある。根拠は、身に付けた知識や技能を活用したり、学びの状況を的確に捉えたりすることで示すことができる。

根拠を示すことで、一往復半以上の「問う」が生じ、思考力・判断力等を高めることに寄与することができる。



生徒自らが「問い」を生むこと

①「生徒」主体で「問い」を設定できる学習展開が必要

授業者から示された「問い」では、学習意欲が高まらず、「問い」を解決するための「仮説」を立てることができない。そのため、結果として解決につながらない。

「やってみたい」「解決したい」という生徒の願いが込められた「問い」とするためには、「問い」を生む段階での**自律的な学び**が必要。

自律的な学びには、他者との関わりを通して、自らの力でこれまで身に付けた知識や技能を活用して、問題を発見することや、課題を的確に設定すること、解決のためのプランを立てることなどがある。

「問い」を解決するために、
他者に「問う」活動を設定すること

②思考・判断する内容の整理が重要

思考・判断すると関連して高めることができる「技能」「態度」「知識」の内容を検討し、思考・判断に関する「目標」「内容」「指導方法」「評価規準」の一体化・系統化を図るべきである。思考・判断する内容を、単元や題材の特質に応じて検討することが大切である。

運動の行い方のポイント、課題を解決するための方法は、内容の提示によっても身に付けることができる。これまでに身に付けた知識や技能を活用し、思考力・判断力等を育成するには、じっくり探究する時間(自律的な学び)が必要である。

ただし、体育分野においては、運動量とのバランスも考慮していく必要があることから、「考えながら動く」「動きながら確かめる」など、学習活動の展開の在り方も今後の検討していく必要がある。



「問い」を解決するために、
他者に「問う」活動を設定すること

③仮説の適切性の評価が重要

思考力・判断力等をも高める手立てとして、「仮説の設定と検証」を設定したが、その適切性についての評価を大切にすることが必要である。

理想とする姿自己(あるいはチーム)の現在の姿との差異を明確にしないままの設定を仮説として設定する際、だと、仮説としては無理があったとの結果も生じる。

仮説の設定と検証により、思考力・判断力等をも高めるには、自己評価能力を高めるような自律的な学びが必応であると考えられる。

札幌市の保健体育の取り組み



大学・市教委・公立学校・附属学校が一体となつての研究



- ◆公立学校でのプレ授業の実践
- ◆延べ300名を超える授業参観
- ◆毎月2回程度の学習案検討会

平成27年度 国立教育政策研究所
教育課程研究指定校事業 研究協議会

2015

北海道教育大学附属札幌中学校

研究概要説明

公開研究授業
平成28年7月26日(火)

